

令和2年度第5回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和3年1月20日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室B（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 小児科 准教授）
大野 元（岐阜県産婦人科医会 理事）
事 務 局 : 石塚 敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
山田 涼子（感染症対策推進課 技師）
今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：馬場委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○行動変容を引き出す情報伝達方法、広報内容について
（委員からの意見等）

令和2年は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動変容等により、流行が抑えられた感染症があった一方、性感染症など、あまり流行が抑えられなかった感染症もあった。これら流行が抑えられなかった感染症の背景を調査し、その情報を広報することで行動変容を促すことが重要と思う。この感染症発生動向調査では、そうした感染の背景を調査し、得た情報を伝えることが重要だと思う。

○各感染症の減少要因（減少しない要因）の分析・解釈について

令和2年、インフルエンザの発生は非常に減少したが、新型コロナは流行している。なぜこのようなことが起こるのかご意見を伺いたい。

(委員からの意見等)

- ・流行の中心となる年齢層がインフルエンザと新型コロナで異なるのではないか？インフルエンザに罹患するのは子供が多いが、今年は学校での感染対策も行われており、流行がみられないのではないだろうか。一方、新型コロナウイルスは会食・飲食などに関連した成人が流行の中心となっており、夜の会食などを続ける人が一定数いるため、ある程度の罹患者が発生してしまうのではないだろうか。成人の行動変容がもっと進めば、新型コロナウイルスの流行もより抑えられるのではないだろうか。
- ・今年は感染症の発生動向について非常に特異的な年と考えられる。この状況を詳しく調査することで、各病原体の特性がこれまで以上にわかる可能性がある。令和3年も令和2年と同様の社会状況が続くとすれば、感染症発生報告の少ない特異的な状況がさらに続くと予想される。そのため令和3年の感染症の発生動向についても引き続き注視し、感染症対策に有益な情報を得ることが重要だと思う。

【情報提供すべき事項について】

- ・新型コロナウイルス感染症に関する岐阜県の基本方針について
- ・保健所や保健環境研究所の役割について
- ・新型コロナウイルスワクチン接種について
- ・風疹対策について（ポストコロナを見据えて）

【情報提供（月番委員専門分野から）】

- ・新規に保険収載された新型コロナウイルスに関連検査について
- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4.1版」について

【その他（感染症対策推進課から）】

- ・「高病原性鳥インフルエンザへの対応について など